

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

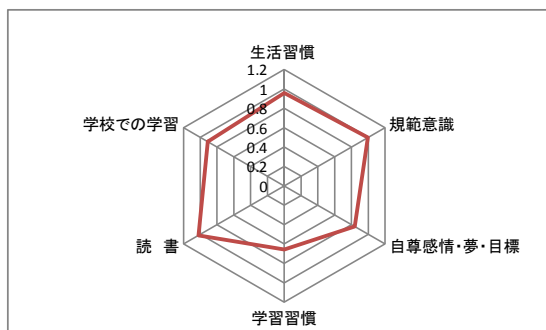
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っており、どの分野においても基礎基本の定着が課題である。 ・特に書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の構成や展開について自分の考えをもつ問題については、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題については、無回答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、昨年度の結果と比べても下回っていた。 ・文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題について課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く問題は、無解答率が低かった。	
	努力が必要な問題	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題について半数以上の生徒が無回答だった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、無回答率も高く、どの分野においても基礎基本の定着が課題である。 ・一次関数の問題が特に無解答率が高く、誤答も多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	小数と分数の乗法の計算をする問題や、正の数・負の数の加法の加法をする問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	比例の式から増加量を求める問題や、一次関数の変域を求める問題の正答率が低く、関数の分野において課題がある。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、昨年度の結果と比べても下回っていた。 ・記述式の問題の無回答率が高く、自分の言葉で答える問題について課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる生徒の回答率が高かった。	
	努力が必要な問題	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することを記述する問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがあると思う」と感じている生徒の割合が増加した。 ・「自分で計画を立てて勉強している」の割合が減少している。 ・将来の夢や希望を持っている生徒の割合は全国とほぼ同じである。夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、それを行動に結びつけていくことが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・基礎学力向上週間を設定し、本年度は定期考査とリンクさせて、反復練習を充実させ、基礎的な学力の定着をはかる。
・すべての教科で、授業における学習の「めあて」「まとめ」カードを使用することで、生徒に学習の見通しを持たせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の習慣が学習意欲に繋がることを踏まえ、週末課題実施から1日1ページノートの取組(全学年)の充実を図る。
・学校通信や学校ホームページ等で学校の取組を積極的に発信したり、学校独自の春休みの宿題を作成して、小学校卒業前に配布する。